

平成24年7月27日

お知らせ

資料提供先 : 鳥取県政記者クラブ

鳥取市政記者クラブ

用瀬地区の景観等に配慮した千代川の整備を考えます

～第1回 用瀬地区堤防景観等検討委員会の開催～

千代川上流の用瀬地区は「流し雛」に代表される、河川と人の関わりの強い地域であるとともに、河川内には露岩が見られるなど、良好な景観が形成されている地域です。

今後、この用瀬地区において河川整備（堤防整備等）を実施する中での景観への配慮や課題等を検討する委員会を設立しました。

日時 平成24年8月2日(木) 13時30分～15時30分予定

(委員会1時間30分程度、現地踏査30分程度)

場所 用瀬町民会館

(鳥取県鳥取市用瀬町別府 流し雛の館となり)

※委員会は公開で実施します



流し雛



露岩

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

【担当】 副所長 いぬやま ただし 犬山 正、工務第1課長 いわた まなぶ 岩田 学

TEL (0857) - 22 - 8435(代表)、FAX (0857) - 29 - 1819

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/>

用瀬地区堤防景観等検討委員会

○委員会の目的(設立趣旨):

千代川の河川整備は、平成19年5月に策定した河川整備計画に基づいて行っており、洪水による災害発生の防止に関して、戦後最大洪水である昭和54年10月洪水と同規模の洪水を安全に流下させることを目標としている。下流域については、概ね目標を達成しつつあるところであり、今後は上流域の整備を進めたいと考えているところである。

上流域の事業箇所の一つである、用瀬地区の雛橋付近から下流約240m区間の国道53号沿いには、周辺の既設護岸や低水路部の露岩など良好な景観に配慮した構造とする必要があることから、治水機能を満足し、かつ地域の文化・景観にマッチした堤防形状(景観)を検討するものである。また併せて、改修区間にあり桁下高不足となっている、雛橋・中橋の取り扱いについても検討を行う。

○委員構成:

鳥取環境大学 理事 道上 正規
鳥取大学大学院工学研究科教授 檜谷 治
鳥取大学地域学部地域政策学科教授 藤井 正(整備局景観アドバイザー)
鳥取市用瀬町総合支所長 中村 晃
吉田 健男(前用瀬三区長)
竹澤 敏男(前用瀬四区長)
鳥取河川国道事務所長 田中 衛

計7名で構成

(事務局:鳥取河川国道事務所 工務第1課)

○検討期間:

平成24年度中に検討結果をとりまとめることとし、2回程度の開催を予定。

